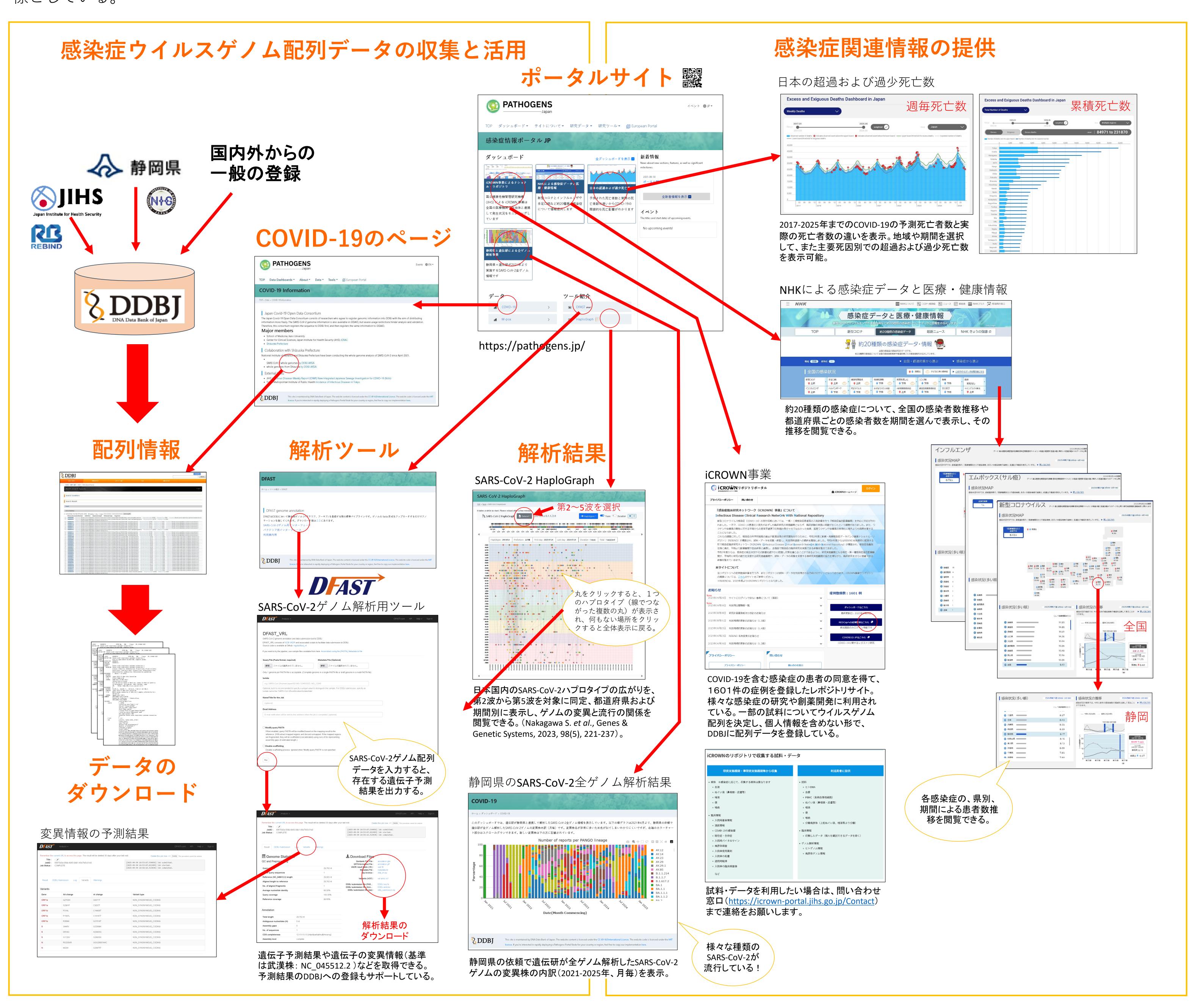
新興再興感染症ウイルスおよび病原菌ゲノムポータルサイトの構築

〇藤澤貴智、谷澤靖洋、荒武、有田正規(遺伝研)

要約

世界各国でCOVID-19を含めた新興再興感染症のサーベイランスが実施されているが、ウイルスのゲノム配列は多様性が非常に大きく、ゲノム変異の可塑性解析や、 ゲノム進化と感染との関係性の解明は不十分である。国内における感染症への危機管理対策に協力するために、DDBJではこれまでに静岡県によるSARS-CoV-2ゲノ ム解析や、国立情報学研究所によるCOVID-19 Data Portal Japanなどの研究を支援してきた。

これらの成果をさらに統合、発展させるために、本年度より国際プロジェクトであるPathogens Portalに参加し、新興再興感染症ウイルスおよび病原菌に関するゲノムデータのポータルサイトとして、Pathogens Portal Japan(https://pathogens.jp/)を構築して公開した。これまでに蓄積したデータや解析結果に加えて、感染症臨床研究ネットワーク(iCROWN)事業などの関連事業からもウイルス配列情報を収集し、データ統合、地理的あるいは時間的変遷の解析のための基盤構築を行う。将来的には、アジアにおける新興再興感染症ゲノムデータの情報共有のための国際連携拠点の確立や、感染症対策に向けた創薬やワクチン開発への貢献も目標としている。

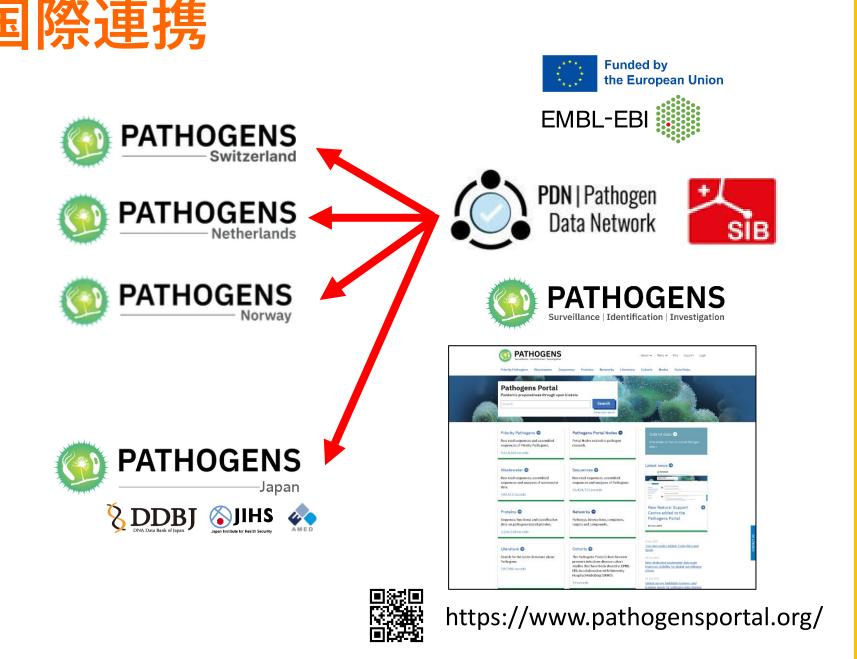


三阪公古 柱

・全世界的な感染症パンタミック対策のために、 各国または国際的な、研究や開発をサポートする ための様々な枠組みができてきている。

・オープンアクセスでのデータ共有を基盤とする 仕組みは少ないが、そのような仕組みのひとつと して、2021年に開設された欧州COVID-19ポータル を拡張したPathogens Portalが、2023年6月に公開さ れた。

・現在までに、国単位でのポータルサイトが少しずつ増加してきており、日本も2025年にポータルサイトを公開した。



(cc) BY

今後の展望

1. 配列データの拡充

COVID-19およびMpoxのゲノム配列データの収集を続けるとともに、新たな感染症ウイルスゲノムについても、JIHS等と協力して収集と整理を進めてゆく。

2. 解析ツールの拡充

現在、COVID-19の遺伝子予測・解析ツールを公開しているが、他の感染症ウイルス(例:Mpox)に関しても、解析ツールの開発を進めてゆく。

3. 感染症関連情報の拡充

感染症に関する生物学的知見や対策等に関する情報を収集し、ポータルサイトで紹介する内容を拡充してゆく。





